

平成13年度

三翠化学会総会開催

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第52号

平成13年4月30日発行

三翠化学会

津市上浜町1515

三重大学農芸化学コース内

電話/津(059)232-1211

振替/名古屋9-5934

印刷/株式会社ある

TEL(052)332-0861 大8長谷川正一

平成12年度

総会報告

大学の近況

農芸化学コースが資源循環学科(第1学科)と生物圏生命学科(第3学科)へほぼ二分して一年が過ぎました。第1学科は土壌・植物栄養学の小畑先生が、第3学科は農産物利用学の小宮先生が学科長としてこの1年間新体制での運営に腐心されてきました。その甲斐あって今年の前期日程の受験倍率は農学系で最高の倍率となり、少しは安堵しております。現在新2年生は11講座に分かれ、3年生となる来年には各研究室に配属されます。平成15年3

三翠同窓会のシンボルである三翠会館と三翠庭園が50周年記念事業で集まった予算7千万円ほどかけて全面改修されることになりました。同時に、大学全体のシンボルとして格上げされます。来々うらには老朽化した柱等が改善され、高等農林時代の古い会議室が空調設備が完備された新しい会議室に生まれ変わると聞いています。新しい同窓会の集会所としての利用が期待されます。平成14年7月下旬に親会に当たる三翠同窓会の総会(2年ごと)が開催されます。関連同窓会もこれと同調する方向で動いています。学生時代共に生活を送った他コース(学科)の友達にも会える場が生まれ、親同窓会



が新しい機能を発揮することを期待しています。数年前には大学の独立行政法人化も始まり、岡崎氏の記事からも分かりますが、国民のニーズと国民へのサービスを全面に出せる組織の再編が求められています。TLOの充足準備、外部評価・自己点検資料作成、学問中心の教育研究から地域に根ざした教育研究などは、それにむけた体質改善作業と考えられます。そして、同窓会は新しい大学の最も心強い支えとなるに違いありません。改築された三翠会館が新築の三翠ホールと共に三重大学のシンボルとして求心力を発揮し、三翠の伝統がいつまでも伝えられるように切に望むところで、

今、私は

独立行政法人 酒類総合研究所
理事長 岡崎 直人(大14)

昨年6月10日定例の総会を済ませたあと、たくさんの二世も集まり伊勢の浜辺で地曳網を楽しみました。大漁でしたので懇親会もおおいに盛り上がりました。地曳網をお世話くださった東大淀(おいず)漁業組合の方はかなりの高齢化を迎えており、地曳網はこれが最後になりそうだと伺いました。お世話していただきました三重県支部長の池山氏には心よ

りお礼申し上げます。総会では、11年度事業報告、決算報告、基金決済報告が了承されたあと、12年度事業計画、予算案も了承されました。これらの記事は比較的紙面を割くこと、年度が過ぎていくこと、2回の会報を1回に縮小したことから1回分にしては記事が多かつた理由から割愛させていただきました。

投稿の依頼を3月に受けた時は、国税庁醸造研究所長をしておりましたが、この4月から50余りの国立の研究機関とともに独立行政法人となり、名称も酒類総合研究所となりました。私の現況を紹介する代わりに、4月2日の発足に当たって行った挨拶を一部加筆して紹介することにいたしました。

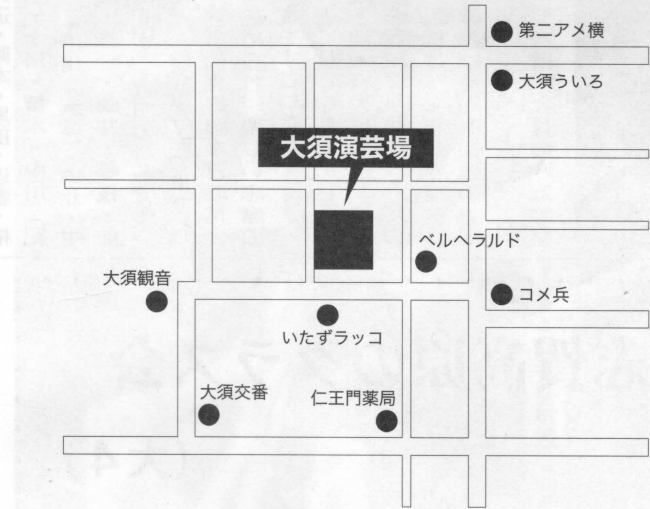
紀を迎え、国民のニーズに即応した効率的な行政サービスの提供と業務の質の向上を実現するという、行政改革の基本理念を実現するために創設されたものである。そのため、酒類総合研究所は、民間では対応の困難な、高リスク、高コストの基礎的・基盤的研究を中心として研究の質を高め、得られる成果を国民と酒類業界に普及し、酒類の健全な発達と酒類に対する国民の皆様の認識が高められるよう努力することが重要であります。



最近の研究で特筆すべきは、進展著しい遺伝子レベルでの解析手法が、容易に利用可能になり、醸造という特異な環境下でのみ発現する遺伝子が数多く見いだされ、機能不明な遺伝子の機能を

独立行政法人には、21世

多の変遷を経て参りましたが、本日ここに、独立行政法人酒類総合研究所が無事発足しましたことは、私どもにとりまして大きな喜びであります。



記
日時：平成13年6月9日(土) 11時~13時半
受付開始 10時半~
総会：11時~11時半
懇親会：11時半~13時半
場所：愛知県名古屋市中区大須2-19-39
大須演芸場 TEL(052)221-1782
地下鉄 鶴舞線「大須観音」駅から徒歩5分
参加費：大人 5,000円
家族 3,000円
幼児 無料
参加申込：同封の葉書にて5月末日までに必ずご連絡下さい。
その他：昼食はご用意させていただきます。
お酒も入りますので、公共の交通機関をご利用下さい。

卒後50周年記念大会ひらく—仙人会—

クラス会 お知らせ

農芸化学第2回卒業生、専

昭和25年3月に卒業してから平成12年でちょうど50年目。71才の老境を迎えて、人生を達観しうる年になった。これを記念してみんなの心ふるさと三重でぜひ集まろうということになった。

戦後、昭和22年44人が入学し、松中君、油田君らが途中で進学し、卒業したのは42人。

それが現在までに村田、若林、海上、油田、前田尚、沖津、佐々木、木村、平尾君の9人が亡くなられた。

☆50年目のつどい☆

大道・岡本・黒部・近藤・榊原・十川・積木・中川(紀一)・中川(潔彦)・中北・中西・長野・藤井・藤枝・前田・山本・吉田の21名であった。(傍点は今回の世話役)

幹事代表の岡本君の司会で進められ、楽しい志摩の一夜をすごした。

とくに、中西君の日本舞踊と積木君の尺八は、皆が息を呑んで聞いた。

最後に、来年のクラス会の幹事は愛知県在住の方に担当して頂くことになった。

翌日は、会員の好意でマ



仙人会 平成12年10月18日 於賢島宝生苑

門二回生をもじって、故沖津茂次君が名付けられた仙人会。

平成12年10月18日、念願の卒業50年目のつどいは、志摩半島の「賢島・宝生苑」で開催された。出席者は次の21人だった。

砂野・石井・市橋・大井・

イカー四台に分乗させてもらい、志摩パールロードを走って鳥羽で解散した。

(文・中川潔彦)

志賀高原のクラス会

(大4)

アーに切り替わった。

翌十一日天候は晴れ、無風、気温十三度絶好の紅葉日和である。前々からお願いでいた顔なじみのトレッキングガイドさんが今日一日の案内である。

午前中は奥志賀の落葉樹林帯と少し奥の一般には未開放の剣沢ダム周辺の隠れ

棚になつて(る)の説明を受けながら、変わった色のコシアブラの木、大きな葉っぱのトチの実の木等いくつか名前も覚えて帰った。

さて、しばらく行った道端に大きなオレンジがかつた塊。ガイドさんによるとまだ新しい熊の糞という。熊の糞を囲んで円陣を敷き観

する。奥志賀とは違つてこのあたりは針葉樹林帯である。木戸池からコメ梅、シラビソの森の中を次々とあられる三角池、上の小池、長池の表情が鏡のような池に写されて疲れもどこへやら。

一日の疲れをほぐしながら、露天風呂ではにぎやか



山歩きの好きな男が次回のクラス会の幹事に指名された。

彼はその場で「開催場所は山でやろう」と宣言した。しかし、みんなの日常生活を考えるとどうしても足に不安を覚える。

標高の高い山で、歩く道はあまり高低差がなく、景色がよく、温泉があつてつるがる宿という条件がみんなの希望のようだった。

数ヶ月あれこれ候補をあげて悩むうち、標高一五〇〇mの志賀高原と決定した。宿はスキーのメッカジャイアントにある小さなホテル。志賀高原のど真ん中に位置し、いい温泉もある。

時期は松尾君(サンパウロ在住)の来日に合わせて十月十日から二泊三日。参加者十六名(うち同伴者五組)が集まった。皆元氣な顔、もう奥様方も顔なじみである。夕食の後これでクラス会は終了とし、志賀高原系ツ

たスポットも案内してもらふことになった。人の気配もなく、ダケカンパの黄色を主体に、ナナカマド、カエデの赤が混じつた山の配色が実に見事。このあたりは月の輪熊の生息地、歩きながら発見する熊棚(熊が樹上の木の実を食べた後が

察が始まった。ナナカマドの実をいっぱい食べて点々と赤い実が残っており、春には実生がいついっしょに出ること。

大きなおにぎりを食べ、午後は木戸池周辺の池巡り。志賀高原は火山によって出来た大小七十以上の池が点

な談笑が続く。最終日は白根火山のお盆に立ち寄り、紅葉の志賀高原を後にした。お天気に恵まれ、久しぶりの森林浴と移り変わる景色に皆満足そうに見えた。やれやれである。(梅田尊夫)

第9回卒業生クラス会の報告

私はクラス会の幹事の人でありながら、あろうことか30分も遅刻してしまい、その穴埋めとしてこの報告を書くはめになってしまいました。今、家族のやじを背中に聞きながら馴れないワープロと向き合つて悪戦苦闘しています。

山にハゼやウルシが色づき、路傍に野菊が薫る去る11月10日、オリンピックの四年毎に開催される第9回農芸化学科卒業生のクラス会が、羽衣伝説で有名な静岡県の三保の松原にある「三保園ホテル」において一泊二日で行われた。

当日はあいにくの小雨模様にもかかわらずスズベイン在住の土地君や、卒業後初めて参加という大道君が四国から馳せ参じ、28人中21人が出席した。飲みながら各人の現状が話されると、それについてあちこちから質問が飛び出し、宴会は予定の3時間を大幅に超えにぎやかな笑い声の中で行われた。退職後間も無い諸氏の話しの一部を紹介すると、「晴耕雨読の生活を送っている」、「大学へ聴講に通っている」、「現役でまだやっている」、「週に1、2回会社に行っている」、など様々であったが、「現役から離れ第三者的な立場で世の中を見ると、現役時代は気付かなかつたり無視して来た事の中に、改めて考えてみなければならぬことが多くあることに気が付いた」という反省の言

葉に多くの賛同があった。

翌日は日の出が6時20分と30分も遅刻してしまい、寒い6時前から眠い目をこすつて起き出し、海からの日の出と赤富士を期待して黒松の続く海岸に繰り出したが、地平線には低い雲があつて、太陽は水平線のやや上から昇ってきた。もやの為に残念ながら富士は見えなかったが絶好の小春日和であった。

朝食後、「ここから羽衣の松まで1km、往復30分」という三輪幹事の甘い言葉にせられて私を含めて10人が勇躍松を見に出かけたが、片道2.5kmはゆうに有り、出発の時間を気にしながら汗を拭き拭きやつと1時間後ホテルに帰ってきた。上半

身裸で海岸を走つて帰つて来た者もいた。汗をシャワーで流した後、ホテルのマイクロスバスで日本平まで送ってもらい、ようやく姿をうつすらと現した富士をバックに記念写真を撮った。その後、ロープウェイで久能山に行き東照宮を見学したが、宝物館で宝物に見とれて集合時間に現れず、皆をやきもきさせる者も出て小学生の修学旅行さながらであつた。昼食は友達達の車に分乗して丸子の宿の「丁字屋」に移動してとろろ汁に舌鼓をうち、オリンピックは夏冬二年毎に開催されるようになったことから、今回は二年後でどうかという希望も含め、幹事を選出して再会を約し、解散した。

平成12年11月12日
鈴木 潔
(農芸化学科第9回卒業)





前田先生を囲む会

専門2回で昭和28年3月 氏らのお世話で、昨年3月
ご卒業の前田巖先生が江南 名古屋駅前のレストランに
短期大学を退官され、農産 て前田先生を囲む会が催さ
物利用学の小宮先生とシキ れました。先生は本学部の
シマパンの近藤光雄(大15) 農産製造学研究室、大阪大

生活から生まれまし 大
な前田先生のネットワー
はわれわれ同窓会員の宝で
もあります。八十歳を過ぎ
られました奈良先生をはじ
め山田先生、また前田先生
の教え子であります江南の
方々も参加され大変盛り上
がりました。

食品化学研究室では、毎
年8月中旬に同門会と称し
て若手中心の集まりをもつ
ております。写真中央の西
田・西村・伊藤君らがこの
会を引張ってきたかいあつ
て10年は
ゆうに過
ぎました。
卒業・修了
生だけで
なく現役
の4年生
も参加す
る元気一
杯の会で
す。院生や
卒論生は
社会人成
り立との
先輩と学
生時代の
思い出を
語らった
り、会社の
裏話的な
情報を交
わせるま
たとな
機会とな
なつてい
ます。場所
や日時の
決定は
往復はが
きでの連
絡は現役
の学生が、
会費の方
は社会人
となり学
生時代の
分を返す
方式が定
まっています。

食品化学研究室同門会

この会は持続性の高いもの
となつていきます。新しい学
部生の時代になりましても
研究室を媒体とすることで
普遍的に継続していつてい
ただきたいと思つていま



2001年 生理活性化学研究室同窓会

京都での農芸化学大会に
合わせ、京都周辺の同窓生
に呼びかけ、こじんまりと
した研究室同窓会を開いた。
3月25日6時半に熊澤先生
を始めとして同窓生12名、ス
タッフ3名、在学生4名、特
別参加の松坂短期大学の山
根先生を含めて21名が京都
鴨川沿いの東華菜園に集
まった。宴は稲垣氏の開会
の辞で始まり、柏村教授が
同窓会参加へのお礼を述べ
られた後、熊澤先生の発声
で一同乾杯した。次々と運
ばれてくる料理を堪能し、
ビールで舌が滑らかになつ
た頃に、参加者に近況を話
していただいた。熊澤先生
は生物資源学部の英語名に

ついての秘話を話され、そ
れに対して谷中氏は「農の
字を消してしまうのはとん
でもない」と主張し、ホッ
トな場面もあった。これも
詔興酒の効用と思われた。ま
た、谷中氏はその勢いで「ぜ
ひ新しいベンチャーが出る
ように若い者に望む」と、ま
た広部氏は「若い人は何で
も経験だと思つて、自分で
やらなければならぬ」と、
次代を背負う若い人たちに
励ましていただいた。記念
写真後、午後9時にお開き
になった。会場設定などで
お世話になつた西田氏にお
礼申し上げます。
(文責 西川)



クラス会の予告

本同窓会の持続性を考えますとクラス会の活性化が一番と考
えています。クラス会の予告欄をもうけますのでどうぞご利用
ください。また、将来は三重大大学のホームページの同窓会の欄にも
クラス会の連絡が可能となるように本部に働きかけたいと思いま
すので、みなさま会員からもこのようなご希望の趣旨をご連絡い
ただければ幸いです。

| クラス | 幹事 | 年月日 | 場 所 |
|------|-------|---------|-----------|
| 専3 | 嶋田 | 13・10・1 | 榊原温泉の神湯館 |
| 専2 | 中川(潔) | 未 定 | 未定(開催は確実) |
| 大学10 | 伊藤 | 13・6月頃 | 湯の山温泉 |

今回は初めてですので準備が充分でない点もありますが、この
ような欄の利用も今後ご検討ください。

同窓会の今後

三翠化学会同窓会会長を招いてこれまで毎年催してきました農芸化学コース新2年生の歓迎会も今年から無くなり寂しさを覚えますが、本同窓会はこれまでと変わらず活発に活動を続けてきたと考えると、いろいろ理由がありますが、これまでも同じような活動も一般化してきています。

年会費納入メモのお詫びと連絡

前回同封いたしました年会費納入状況メモの一部の内容に更新ミスがあり大変ご迷惑をおかけしました。遅くなりましたがお詫び申し上げます。連絡していただき、早速ミスの原因を明らかにして正しく更新いたしました。年会費納入簿には納入実績が正しく記されていますが、それをコンピュータに記入する時期に学内の管理人が変更ミスが出てしまいました。当分の間は年会費と住所の管理者は変えないでいく方針です。また、年会費納入メモを同封する場合にも入れ間違いが起る可能性があります。今回からは住所等が記されています。タックシールの右下に年会費納入メモを書かせていただきます。一年間の年会費は千

訃報

故別府君の死を悼む

吾が親友別府君は、去る二月病魔に冒され逝去しました。顧りみれば私達同級生は、昭和二十一年四月三重農専に新設された農産製造学科第一回生として、大いなる希望をもって入学し、頑張ってきたものです。皆様もご存知のとおり、別府君の渾名は、「赤猪」であり、赤い顔をして、何事も猪突猛進することが渾名の由来です。性格は、人情に厚く、物心両面に亘り人の面倒をよくみる親分肌の人でした。

先駆けて岡田久司君が逝く

農芸化学第三回の私たちは三十名入学、二十九名の卒業で四十五年を経過し、高度成長時代をひた走りましたがその殆どが社会の第一線を退き、ようやく時間的な余裕を得て趣味やボランティアに生きがいを見つけた年代に入りました。昨年、八月の終わり頃、岡田君の名前で角川書店から句集『鷹柱』が贈られて来ました。その本の中に去る五月の半ばに、医師より余命いくばくも無いことを告げられた父(岡田南正)は、急に句集を上梓することを思いました。云々との娘さんたちの紙片が挿入されていたので驚き、同窓の奥野誠二君と連絡をとり、彼の自宅に電話を入れたところ、只今入院していて、抗がん剤服用のせいで話が難しいのもう少し良くなつてからお出で頂いた方が良かったとのことでした。九月一日、逝去の知らせがありました。同窓を代表して 岡田久司君を偲ぶこととします。

平成12年度卒業・修了生の進路

農芸化学コース主任 小畑 仁

一時期上向きかけていた景気がまた冷え込みはじめてしまい、就職超氷河期といわれ始めてからすでに5年以上過ぎようとしております。最近求人大学に届けられる数が少なくなり、学生自身がインターネットや就職情報誌で各自探して自分で応募する形式が増えてきました。また就職活動開始時期が早まっております。学生の研究室での勉強や研究活動に支障が出てきております。就職を取りまく環境はこのように決まっております。我々のコースでは結果として同窓諸兄のお力添えも頂いて、このようになり、卒業・修了生諸君は新しく第一歩を踏み出すことができることとなりました。それぞれの場での新入生ということになります。先輩として、どうぞよろしくご指導の程お願いいたします。また今後とも学生の就職活動にお力添え頂きますようお願い申し上げます。

平成12年度学部卒業生の就職・進学先

- 青木 貴宏 名古屋大学大学院
- 荒木 理江 生物資源学研究所
- 石川 謙吾 生物資源学研究所
- 伊藤 俊輔 名古屋大学大学院
- 伊藤 直彦 生物資源学研究所
- 伊藤 玲奈 大阪大学大学院
- 稲葉 誠和 生物資源学研究所
- 岩本 月子 生物資源学研究所
- 大村 知子 (株)やまひろ
- 岡本美由紀 奈良先端科学技術大学院大学
- 梶田 祐 生物資源学研究所
- 川口 将和 名古屋大学大学院
- 北折 寛子 名古屋大学大学院
- 近藤 宏 (株)くらコーポレーション
- 島岡 朋子 丸信製粉(株)
- 曾我部真里 カネハツ食品(株)
- 蘭部 佳史 名古屋大学大学院
- 高木 瞳 日本ハム食品(株)
- 田中 聡樹 名古屋大学大学院
- 田中 智之 奈良先端科学技術大学院大学
- 富田 浩輝 生物資源学研究所
- 鳥居あすか ワタミフードサービス(株)
- 中里 紘子 丸信製粉(株)
- 鍋島 弘樹 日本農産工業(株)
- 西口 達也 生物資源学研究所

- 西本 珠代 松阪農業協同組合
- 橋原 直美 就職予定
- 林 栄実子 奈良先端科学技術大学院大学
- 林 俊道 生物資源学研究所
- 原 貴子 キューピー(株)
- 藤岡 敏明 生物資源学研究所
- 松岡 寿保 生物資源学研究所
- 水谷 直人 長野県警察本部
- 村田 淳 (株)関谷食品
- 森 由美子 (株)トピックス
- 山田 弥生 生物資源学研究所
- 山本 直訓 生物資源学研究所
- 横田 倫之 北陸製菓(株)
- 渡辺 雅子 生物資源学研究所
- 市原 沙恵 在学
- 上野 史子 生物資源学研究所
- 下岡 令美 生物資源学研究所

- 享紺 正樹 九鬼産業(株)
- 黒川 純司 生物資源学研究所博士課程
- 坂下 弘樹 在学
- 清水 雅美 理化学研究所
- 神藤 定生 生物資源学研究所博士課程
- 杉本 渚 科学技術振興事業団
- 鈴木 史人 ミヨシ油脂(株)
- 棚橋 美穂 丸信製粉(株)
- 八太 昭子 農林水産省 野菜・茶業試験場
- 吉本 倫子 シスメックス(株)
- SURYANI 生物資源学研究所博士課程

博士課程修了者の就職・進学先 (平成13年3月)

- 鈴木 恒一 在学
- 久保さつき 休学
- 香田 淳 三重大 (ポスドク)
- アリ ムシエダカツン 米国 ライス大学 (ポスドク)
- ティティ チャンドラ スナルティ 帰国 (ポゴール大学)
- ドイエラ エフィフルニ 帰国 (ポゴール大学)

修士課程修了者の就職・進学先 (平成13年3月)

- 安藤 雅之 甲陽化学工業(株)
- 飯田 親 京都府立大学博士課程
- 宇佐美 衛 ゼリア新薬工業(株)
- 大脇 進治 (財)日本食品分析センター
- 岡森万理子 二子二子製菓(株)
- 加納 豊 横浜市立大学博士課程
- 河合 奈々 四日市酪農協同組合